

事例 溪流等と一体となった森林における生物多様性保全の取組

国有林野事業では、公益的機能の発揮上重要な役割を担っている溪流等と一体となった森林について、生物多様性の保全をより推進するため、平成 25 年から各森林管理局において「溪畔保全プロジェクト林」を 36 か所、160km 設定してきました。

平成 29 年度は、これらプロジェクト林における植生等の状況を調査し、「溪畔保全プロジェクト林における調査事業報告書」として取りまとめました。同報告書では、溪畔林整備を行う上での留意事項として、溪畔林の管理範囲、地域別の主な溪畔林構成樹種、森林整備の方法等について整理するとともに、種子散布や流木等を捕捉する防災上の効果に関する事例についても紹介しています。

今後、溪流等と一体となった森林の施業等に当たっては、本報告書で整理された取組・知見等も活用しながら、保護樹帯を設定し、周辺環境の状況等に応じた取扱いをしていくこととしています。

(林野庁ほか)

平成29年度 溪畔保全プロジェクト林における調査事業報告書（概要）

「溪畔保全プロジェクト林」における植生・攪乱等の状況を調査し、今後における溪流等と一体となった森林の施業に当たっての知見等について整理。

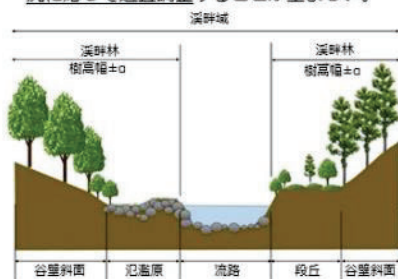
森林整備の方法

	溪畔林の現状	誘導方法
人工林	林分内に高木性広葉樹の稚樹が存在しない場合	間伐により光環境等を改善し、高木性広葉樹の稚樹(種子)の導入を促す。
	林分内に高木性広葉樹の稚樹が生育している場合	間伐により高木性広葉樹の稚樹の成長・定着を促す。
針広混交林		択伐等により高木性広葉樹の稚樹の導入・成長及び樹冠を構成する高木性広葉樹の成長を促し、広葉樹林に誘導する。
広葉樹林		溪畔域の重要な種子供給源となり得ることから、現状(自然な状態)を維持。

注) いずれの誘導方法においても、周辺の母樹の有無や更新阻害要因(シカ・ササ等)の影響を考慮する必要がある。

管理範囲

対象とする溪畔林の管理範囲は、地形の状況に応じて適宜調整することが望ましい。



種子散布の事例



洪水攪乱の及ぶ立地特性により、上流域に生育するその地域に本来成立すべき溪畔林構成樹種等から種子が供給(上流から一緒に土砂も供給)された事例

流木等の捕捉事例



大規模な洪水攪乱により、上流部から流れてきた様々な太さ、長さの針葉樹や広葉樹、巨礫等が、残存している大径木のサワグルミに捕捉されている状況が確認された事例

事例の場所：東北森林管理局 大又沢溪畔保全プロジェクト林

説明：図は「溪畔保全プロジェクト林における調査事業報告書」の概要です。
写真は溪畔保全プロジェクト林の林内の様子です。